

笑顔あふれる大戸小

大戸小マスコットすぎっぴー



大戸小だより

URL:<http://oto-e.saitama-city.ed.jp/>



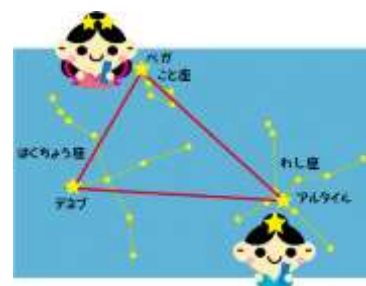
開校151年 学校教育目標 ○かしこく ○やさしく ○たくましく

令和5年6月30日
学校だより7月号
さいたま市立大戸小学校
831-3796
明治6年開校

私もあなたも、星の子どもです

校長 吉岡 貴和

正面玄関に七夕の飾りが登場しました。7月は「文月」ともいい、書物の風通しをする「文被月」が語源といわれています。七夕の行事は奈良時代から始まり（中国から伝来）江戸時代に一般に広まりました。笹竹に願い事をかいた五色の短冊を飾るようになったのもこの頃からのようです。織姫（ベガ）彦星（アルタイル）は7月よりも8月夕方のほうが、夜空高くに上り、見やすくなります。ふたつの星はともに1等星、ここ大戸の空でも楽に見つけられるほど明るく輝いています。 ※文被月（ふみひろげづき）



さて先日、7月の音楽朝会で歌う曲「COSMOS」にちなんで、宇宙に関するインタビューをしていただきました。その時にもお話をしましたが、かつて「私たちは星の子どもである」と語った天文学者がいました。歌詞にも「君も星だよ」とあります。いったいどういう意味なのでしょう。

少し難しい話になりますが、今から138億年前、宇宙が誕生したときは水素、ヘリウムなどのごく単純な物質しか宇宙にはありませんでした。水素やヘリウムから星が生まれ、星が輝いている間にその内部で重くて複雑な物質が作られます。私たちの身体をつくる炭素や酸素も星の内部で作られました。そして一生を終えた星のからだは再び宇宙空間に広がり、次の星の材料になります。これを何度も繰り返すうちにたくさんの複雑な物質ができ、その物質から私たちの身体はできている。だから「私たちは皆、星のかけらから出来ている星の子どもたち」というわけです。

©国立天文台



はるか遠い昔、広い宇宙のどこかで創られた星のかけらが今、私たちの身体の中にある。そんな不思議を思いながら、この夏休み、夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。特に8月13日～14日はいつもより流れ星の数が増えて、願い事をするチャンスです。

今年の夏休みが、児童や保護者の皆さん、地域の方々にとって有意義な時間になる事を願っています。令和5年の夏は、1回限りですよ。

元気な笑顔の皆さんと、また2学期会うのを楽しみにしています。

私も皆さんに負けないように有意義な時間を持たなくちゃ。